

一般会計決算

平成18年度の歳入合計は、214億5816万円、歳出合計は206億7912万円となり、平成17年度に比べ、歳入で26億8497万円の減額（11・1%減）、歳出で26億9261万円の減額（11・5%減）となりました。

差し引き7億7904万円の黒字決算となり、5億円を基金に積み立てて、残りの2億7903万円は平成19年度に繰り越しました。

歳入では、市の財政力に応じて国から交付される「地方交付税」と借金である「市債」の合計が全体の約6割を占めており、非常に足腰の弱い財政構造となっています。皆さんから納めていただいた市税は26億5211万円で、平成17年度に比べ、2101万円の増額（0・8%増）となっています。

歳出を性質別（物を買う、道を作るといった「どのように使ったか」で分類したもの）にみると、新たに施設を造るための経費である「投資的経費」が47億9733万円で歳出全体の23・2%と最も多くなっています。しかし、平成17年度に比べると31億3694万円の減額（39・5%減）となっています。これは、平成17年度に策定した行政改革大綱に沿って建設事業を抑制した結果によるものです。

次いで、過去の借入金の返済金である「公債費」が40億1344万円で歳出全体の19・4%を占めており、平成17年度に比べて8億4439万円の増額（26・6%増）となっています。これは、今後、公債費負担がますます上昇するため、後年度の公債費負担を少しでも軽減させ、財政の健全化を図るために7億9818万円の繰上償還を実施したためです。

特別会計決算

市の会計には、国民健康保険特別会計、老人保健特別会計、介護保険特別会計、簡易水道事業特別会計、下水道事業特別会計など、一般会計とは別に経理を行っている特別会計が9会計あります。

このうち、平成18年度は7特別会計が黒字決算で、老人保健特別会計、住宅新築資金等貸付事業特別会計の2会計が赤字決算となりました。

企業会計決算

企業会計とは、独立採算制を原則とし、企業的特徴の強い事業を行う場合に設置する特別会計のことです。養父市では、水道事業、水ノ山国際スキー場事業、農業共済事業の3企業会計を設置しています。

平成18年度は、農業共済事業は黒字決算となりましたが、水道事業、水ノ山国際スキー場事業の2会計は赤字決算となりました。

■各会計決算額

			歳入	歳出	差し引き
一 般 会 計			214 億 5,816 万円	206 億 7,912 万円	7 億 7,904 万円
特 別 会 計	国民健康保険	事業勘定	26 億 5,505 万円	25 億 7,727 万円	7,778 万円
		建屋診療所施設勘定	6,200 万円	6,200 万円	0 万円
		大屋診療所施設勘定	1 億 6,109 万円	1 億 6,109 万円	0 万円
		大屋歯科診療所施設勘定	3,914 万円	3,914 万円	0 万円
		出合診療所施設勘定	9,271 万円	9,237 万円	34 万円
		大谷診療所施設勘定	8,207 万円	8,037 万円	170 万円
	南谷診療所	9,902 万円	9,902 万円	0 万円	
	養父歯科診療所	5,101 万円	5,101 万円	0 万円	
	老人保健	38 億 8,108 万円	40 億 8,446 万円	▲ 2 億 338 万円	
	介護保険	28 億 3,988 万円	28 億 1,127 万円	2,861 万円	
	住宅新築資金等貸付事業	741 万円	8,069 万円	▲ 7,328 万円	
	土地取得	2,689 万円	2,689 万円	0 万円	
	簡易水道事業	13 億 6,887 万円	13 億 6,678 万円	209 万円	
	下水道事業	24 億 9,034 万円	24 億 8,759 万円	275 万円	
計（特別会計）	138 億 5,656 万円	140 億 1,995 万円	▲ 1 億 6,339 万円		
			収入	支出	差し引き
企 業 会 計	水道事業	収益的収支	2 億 1,304 万円	1 億 8,542 万円	2,762 万円
		資本的収支	4,290 万円	1 億 1,680 万円	▲ 7,390 万円
	水ノ山国際スキー場事業	収益的収支	9,296 万円	1 億 1,111 万円	▲ 1,815 万円
		資本的収支	0 万円	5,123 万円	▲ 5,123 万円
	農業共済事業	収益的収支	1 億 1,513 万円	1 億 1,148 万円	365 万円
計（企業会計）		4 億 6,403 万円	5 億 7,604 万円	▲ 1 億 1,201 万円	